聖書箇所:ルカの福音書1章5~23節
「喜びの訪れ（1）　ザカリヤとエリサベツ」

【1】ユダヤの王ヘロデの時代

・「ユダヤの王ヘロデの時代」とは？
　　―ローマ帝国の支配下
　　―ローマの後ろ盾で王になったヘロデ
　　―王の決定の追認機関となった最高法院
　　―王の友人を大祭司職に配置

【2】祭司ザカリヤとエリサベツ

・祭司ザカリヤとエリサベツ
　　―二人とも祭司アロンの子孫
　　―神の前に正しく、命令と掟を忠実に守る模範的な夫婦

・「子がいなかった」二人
　　―「子どもは神の祝福の証し」と言われる社会
　　―子がいないことを「恥」としていたエリサベツ(ルカ 1:24-25)。
　　―自分たちの代で途絶える祭司家系

【3】喜びの訪れ

・神殿で香をたく特別な任務に選出されたザカリヤ

・ザカリヤに現れた主の使いガブリエル
　　―子の誕生の告知：「あなたの願いが聞き入れられた」
　　―子の誕生は老夫婦の喜びにとどまらず…（ルカ 1:14–17）

・ザカリヤとエリサベツ、そして神殿の外で祈る大勢の民の祈りに応えられた神

【4】何によって知ることができるのか？

・神のことばを信じるための「しるし」を求めたザカリヤ
　　→与えられた「しるし」とは？

・誰の目にも明らかなこと
　　―神殿の中でザカリヤが幻を見たこと

▶第一アドベントを迎えました。*「私はそのようなことを、何によって知ることができますか」*と「私が」　信じるための根拠を求めることから、「神のことば」そのものに信頼し「喜びの訪れ」を静かに待ち望むことができますように(ルカ 1:37)。